

# 平成28年度病院医学教育研究助成成果報告書

報告年月日：平成29年 4月10日

研究・研修課題名	認定病理検査技師の取得
研究・研修組織名（所属）	病理部
研究・研修責任者名（所属）	長崎 雅幸（検査部）
共同研究・研修者名（所属）	

## 目的及び方法、成果の内容

### ①目的（800字程度）

認定病理検査技師制度は、標準化された精度の高い病理標本作製技術・専門的知識、病理部門のマネジメント能力等を総合的に評価し認定するものである。認定資格の取得は、病理診断の精度向上に寄与することが期待できる。

受験資格の1つとして指定講習会への参加が義務づけられているため、指定講習会を受講して受験資格を獲得し、認定資格取得することを目的とする。

### ②方法（800字程度）

#### 受験資格

1. 日本臨床衛生検査技師会の会員で臨床検査技師であること
2. 「日臨技生涯教育研修制度」修了者
3. 日臨技認定センター指定講習会受講者
4. 日本病理学会会員の医師または施設長の推薦を受けた者
5. 病理検査業務に5年以上従事していること

指定講習会を受講して受験資格を獲得し、認定試験を受験する。

指定講習 日時：平成28年7月23日 9時～24日 16時

会場：大崎プライトコア（東京都品川区）

認定試験 日時：平成28年12月4日 9時30分～

会場：名古屋市立大学医学部（愛知県名古屋市）

### ③成果（データ等の図表を入れて2000字程度）

指定講習会、認定試験を経て、認定病理検査技師の資格取得に至った。

指定講習会は、病理検査業務に関係する知識、技能、及びマネジメントなど幅広い内容について行われ、知識を深めることができた。検査の標準化や精度管理など、日常業務で課題となっていることも多く、経験豊富な講師の先生方の講演は有意義なものであった。

指定講習会を受けて行われた認定試験は、筆記試験（マークシート、記述、小論文）にて行われた。検体受付・検体処理～標本作製までの技術的なことから、精度管理、作業環境対策、医療安全対策、法的知識や診療報酬など病理検査に関わる総合的な知識・技能が求められる内容であった。

今回の指定講習会、認定試験を通じて、認定病理検査技師の役割を理解することができた。病理部門の現状として、標準化された精度の高い標本作製のための精度管理、ホルマリンなどの作業環境対策、バイオハザード対策など課題も多く、認定病理検査技師の能力が求められるところである。これらに加えて、病理部門の運営に関するマネジメント能力や病理医、臨床医とのコミュニケーション能力、後進の育成なども求められており、病理診断に関する総合的なスキルが必要とされている。認定病理検査技師としてこれらの課題・問題点について意識を持って日常業務にあたり、質の高い病理診断に貢献していきたいと考える。

\*一般社団法人 日本病理学会、及び一般社団法人 日本臨床衛生検査技師会  
認定病理検査技師認定証 受領 【2017年4月1日】